

有明海再生赤潮モニタリング委託事業

夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリング

岩永卓也・山田秀樹・中原 啓太・藤武史行

有明海における貧酸素水塊の消長シナリオの構築及び貧酸素水塊の発生予察手法の検討に資するために、夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリングを行った。なお、本課題の詳細については、令和7年度豊かな漁場環境推進事業「赤潮等による漁業被害への対策技術の開発・実証・高度化報告書」で報告した。

方法

図1に示すSt.T2, T13, P6, P1およびB3の計5定点において、2025年7月17日から9月15日にかけて計8回の調査を実施した。調査項目は、表層における植物プランクトンの細胞密度とした。

結果

各定点における *Chattonella* 属、珪藻類および渦鞭毛藻類の細胞密度の推移をそれぞれ図2、図3および図4に示した。

Chattonella 属は、8月1日の全地点で初認され、St.T13では細胞密度が196 cells/mLとなりブルーム化した。その後、ブルームが終息し8月12日から8月24日の期間で、*Chattonella* 属の細胞密度は0~70 cells/mLで推移した。9月1日にはSt.T13で再び*Chattonella* 属ブルームが形成され、最高細胞密度は、256 cells/mLとなった(図2)。

珪藻類の細胞密度は、7月24日のSt.B3で9,334 cells/mL、8月1日のSt.T2で3,262 cells/mL、8月19日のSt.T13で3,708 cells/mLと高密度であった(図3)。

渦鞭毛藻類の細胞密度は、全調査期間を通して2~732 cells/mLと比較的高密度であり、8月19日にはSt.T2およびT13で*Akashiwo sanguinea*がそれぞれ細胞密度296 cells/mLと236 cells/mLとブルーム化した(図4)。

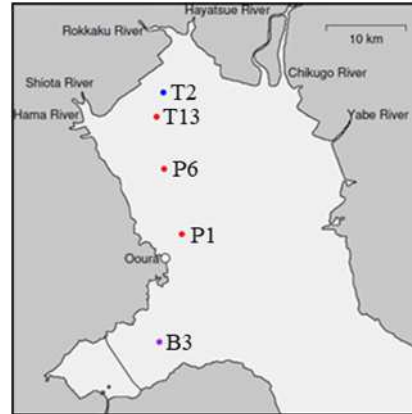


図1 観測地点

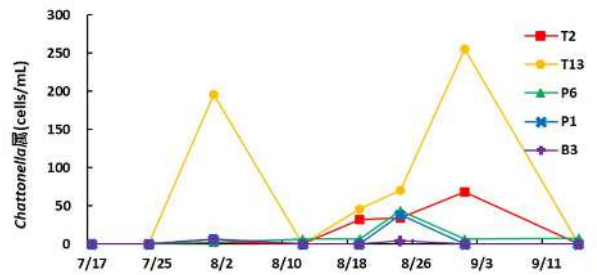


図2 各定点における *Chattonella* 属の細胞密度の推移

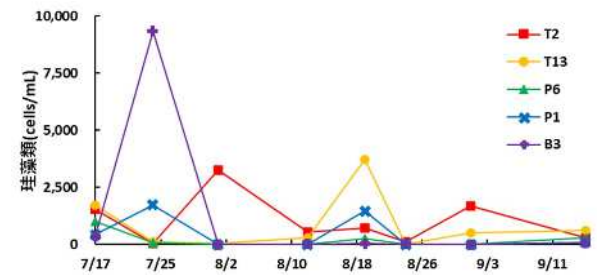


図3 各定点における珪藻類の細胞密度の推移

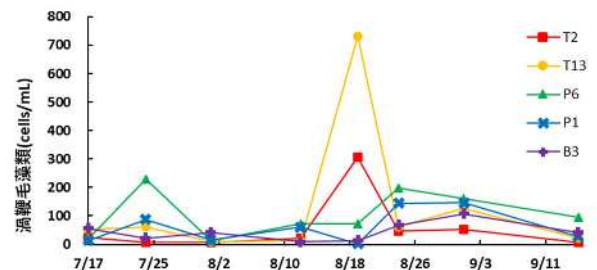


図4 各定点における渦鞭毛藻類の細胞密度の推移